

- ・留学期間：3年次 春学期
- ・所属学科：総合社会学科

韓国へのあこがれ

私が韓国に留学に行きたいと思ったきっかけは韓国の文化でした。幼いころに母と韓国ドラマを見ているうちに韓国に興味を持ち、そこから韓国ドラマ以外に KPOP や韓国のファッション等に関心を持つようになりました。高校生の頃から韓国語を独学で勉強しており、バイト先での接客や旅行で困らないくらいまで話せるようになりました。しかし、新型コロナウイルスの影響により韓国語を話す機会が少なくなったため、自分がどこまで話すことができるのかわからない状態になってしまいました。そこで、韓国に留学に行くことができる京都文教大学へ進学し、日常会話ができるようになりたいと考えるようになりました。大学に入学後も、独学で勉強を続け、韓国人の友人と SNS を通してメッセージを送ったり、電話をしたりしていました。

刺激を受けた湖西大学校での授業

湖西大学校では、韓国語の授業を2つ、文化映像学科の授業を2つの合計4つの授業を受講していました。元々、語学堂【注：大学が運営する韓国語の語学学校】に行くかどうか悩んでいましたが、語学堂を一度見学してみた結果、通わずに自分で勉強しようと考え、語学堂で使用されていた教科書のみを購入しました。勉強中にわからない部分があればルームメイトや友達、国際事務所の方に教えてもらっていました。学科の授業では、韓国語で授業を受講することは初めてだったので、専門用語が出てきたりなどと最初は聞き取ることも難しい状態でした。しかし、受講を重ねるごとに徐々に韓国語も聞き取れるようになり、授業についていけるようになりました。グループワークでは、意見を求められる場面が多かったので、会話の練習にもなりました。同じ授業を受講している学生の中には、日本が好きな学生や日本に留学予定の学生もいたので、交友関係を広げることができる良いきっかけとなりました。また、日本では非対面の授業が多かったため、グループワークの経験が少なく不安もありましたが、韓国人学生の留学生に対する気遣いや意見の出し合い、役割決めなどグループワークに積極的に向き合う姿を見て刺激を受けました。韓国語の授業は、TOPIK3 級レベルの授業でした。授業の合間に先生が生徒に質問をしたり、会話を挟みつつ授業を進めてくださるので、他の国の文化も学ぶことができ楽しく受講することができました。

サークル活動で日本語を教える

授業外の活動では、ゲーム学科で行われる日本語教室や文化映像学科の日本語サークル、バディプロ

グラム、学校が行っている EMC という 1 対 1 で日本語を教えるプログラムに参加しました。日本語教室には日本で就職を考えている学生、日本語サークルでは日本に留学に行くことを考えている学生、EMC には日本に興味がある学生や JLPT を取りたい学生がいました。私は日本語教師に興味があったので、学生一人一人の要望に合った授業を構成したり、実際に日本語や日本の文化を教える活動がすごくいい経験になりました。

ゲーム学科の日本語教室では、全州で行われた 1 泊 2 日の日本語研修にも参加させていただきました。普段日本語の授業でしか話す機会がなかった学生たちと、研修を通してさらに仲を深めることができました。バディプログラムは、湖西大が学校が行っているプログラムの一つで、国際事務所に申請をすると参加することができます。韓国人の学生 1 人が留学生 1 人に留学生活で困っていることや不安なことがあれば手助けしたり、遊びに行ったりなどの活動をします。ご飯を食べに行ったり授業後にカフェに行ったりなど、楽しく活動を行いました。

これらの課外活動を通して他の学科の友達を作ることができ、日本に興味がある学生がたくさんいることを知り、すごく嬉しかったです。

よきルームメイトとの出会い

私は韓国人の方と 2 人部屋を希望していました。入寮申請をした際に、事務所の方にすでにルームメイトがいる学生が多いので難しいと言われましたが、たまたま事務所でアルバイトをしていた学生が部屋を 1 人で使っていたため、「ぜひ一緒に住みたい！」と言って下さり、運よくその子と住めることになりました。また、同い年だったことや好きなものなどの共通点が多く、すぐに仲良くなることができました。わからない単語があれば、すぐに翻訳機を使わずに簡単な韓国語で説明してくれたり、言い換えや若者言葉など授業では学ぶことのできない韓国語も教えてくれました。宿舎で体調を崩して不安だった時も、いつも助けてくれました。また、夜中までいろいろな話をしたり、週末には出前を頼んだり、家に遊びに行ったりなど、半年間という短い間ではありましたが、本当にたくさんの素敵な思い出を作ることができました。

宿舎の近くにあるコンビニでは、行く回数を重ねるごとにお店の方と仲良くなり、また日本で会う約束もしました。

夏休みが終わってから帰国までの約 2 週間は 4 人部屋に住んでいました。4 人部屋の宿舎は 2 つあるのですが、私は男子用の宿舎と女子用の宿舎が隣接している E 棟に住んでいました。男子寮と女子寮が隣接しているのと、部屋数が多かったことから、朝から夜中まで騒音がひどく、2 人部屋に比べて不便な部分が多かったです。しかし、人数が多い分、授業を通して仲良くなった友達や知り合いに会える機会が増えました。また、E 棟に来てから、近くの部屋の学生と親しくなり、よく部屋で遊んだり、一緒に勉強をしたり、一緒にご飯を食べたりなど残りの留学生活もとても充実した時間を過ごすことができました。

文化映像学部について

私は京都文教大学で国際文化コースに所属していましたが、湖西大学校では文化映像学部にも所属していました。春学期からの留学だったので、2022年入学の1年生が参加する、入学アルバムの撮影に参加させていただいたり、MT（短期合宿）にも参加させていただきました。MTは、同じ学科の友人が誘ってくれたり、参加することになりました。1泊2日の合宿だったのですが、バーベキューをしたり、遊んだり、お酒を飲んだりなど最初から最後まで楽しく過ごすことができました。また、授業が被っていない学生とも仲良くなることができました。他にも、授業などを通して学科長や先輩と話す機会が増え、学科のイベントや集まりにも参加させていただきました。イベントを重ねるごとに知り合いも増え、学内で見かけると声をかけてくれたり、一緒にご飯に行こうと誘ってくれたりとおたたく接して下さる学生が多くて、すごくアットホームな学科でした。

留学中に困ったこと

留学初期は、交通機関を利用する際にすごく手間取ってしまいました。例えば、韓国では日本のように時間ピッタリに電車が来ないことが多々あるため、間違えて違う行先の電車やバスによく乗ってしまいました。留学中に一番困ったことは、帰国前の2週間をどこで暮らすかでした。韓国の大学の夏休みは8月末までですが、京都文教大学は9月まで夏休みがあったので、開講直前まで韓国で過ごす予定でした。そのことは国際事務所の先生にも伝えており、ビザの面でも問題はないとされていました。しかし、夏休み終盤に事務の方から、秋学期から宿舎に住む予定の学生がいるため宿舎が利用できないと言われました。一度承諾を受けていたので、その時にはすでに帰国用の航空券も予約しており、すごく困ってしまい不安でした。最終的には事務の方が、宿舎の事務局と調整して下さり、残りの2週間も無事に宿舎で過ごすことになりました。

「異文化理解」とは

今回の留学を通して、韓国の文化を肌で感じる事ができ、たくさんの方と出会い、旅行では体験できないことを多く経験できました。韓国に来た当日、不安や緊張で体調を崩して、配布されたお弁当が食べることができませんでした。そのことを国際事務所の先生に伝えると、すぐにおかゆと薬を買ってきてくださいました。また、他の学科の教授が、「日本で研究をしていた時に日本人にお世話になったから、同じ日本人の学生にその恩を返したい」と私たちにご飯をごちそうしてくださいました。週末には、金居先生【注：湖西大学校で交換留学生の受け入れをご担当いただいている先生】が観光地を案内してくださいました。電車ではいけない場所や、ドラマの撮影地、韓国の神社などにも連れて行ってくれたり、ソウルや学校外に

も行くことができました。他にも友人の家に泊りに行った際にはご家族が歓迎して下さい、日本帰国前には、友人がプレゼントや手紙まで用意してくれていたり、学校で見送ってもらうなど、留学の初日から最後まで恵まれた環境で留学生活を送ることができました。

このようなたくさんの素敵な方々に支えていただいたおかげで、日本に帰りたいと一度も思うことがなかったくらい、楽しくてあっという間の半年間でした。

今まで国際文化コースで、異文化について学んできましたが、留学に来る前までは違う文化を学び、理解することだけを異文化理解だと考えていました。しかし、今回の留学を通して「日本人だからこうだ」、「韓国人だからこうだ」といった国の文化だけに焦点を当てて考えるのではなく、まずはその人自身を知ることが大切であると感じました。留学を通して授業では学べない文化も肌で感じることができました。

感謝の気持ちでお返しを

日本に帰国後、湖西大学校からも、2人の学生が交換留学で来てくださいました。私が湖西大学校で留学していた時にたくさんの方々に支えていただいた分、「京都文教大学に交換留学に来てよかった」と思っていたように、今度は私がサポートしていきたいと思います。また、日本語教室での経験を活かして来年受講予定の日本語教師の実習や日本語教室に取り組もうと思います。

最後になりましたが、留学準備から留学後まで支えてくださった方々、留学を通して出会った方々、素敵な時間を一緒に送ってくれた友人に感謝を伝えたいです。今回の留学は私にとって貴重な経験であり、夢のような時間でした。本当にありがとうございました。